《臨床仏教師養成関西第1期プログラム》

臨床仏教 公開講座

講座スケジュール

※本講座は臨床仏教師養成プログラム通算第4期となります。

第1講 10/10（火） 18:00〜20:00

開講式・記念シンポジウム

いのちのケアを考える

－現代社会と宗教者－

内容

誰もが避けることのできない生老病死――その苦しみにどう立ち向かっていくのかは人類にとって普遍的な問題である。多様な苦しみの多いこの現代社会において、宗教者はどのように隣人に寄り添えばよいのか。「いのちのケア」のあり方について考える。

開講挨拶

河野太通（花園大学総長）

パネリスト

カール・ベッカー（京都大学・花園大学）
窪寺俊之（聖学院大学）
神 仁（臨床仏教研究所）

モデレーター

千石真理（臨床仏教研究所）

第2講 10/24（火） 18:00〜19:30

死が教えてくれること

－臨死体験・死生学から－

内容 死について考えることは、生の尊さを知る道程だとも言われている。とかく普段は目を逸らしてしまいがちな「死」について深く考察し、生と死の狭間に苦しむ他者を支える礎としたい。

講師 カール・ベッカー（京都大学・花園大学）

第3講 11/14（火） 18:00〜19:30

生きる意味の探求

－若者の自死・自殺を防止する－

内容 自殺サイトに掲示板……インターネット上には若者の辛い気持ちが溢れている。そうした声に、SNS等を活用しながら寄り添う仏教者の姿が――。孤立しがちな現代、仏教者が果たすべき役割とは。

講師 根本紹徹（いのちに向き合う宗教者の会）

第4講 11/28（火） 18:00〜19:30

貧困のなかの子どもたち

－インド子ども支援－

内容 私たちの想像をはるかに超える圧倒的な経済的格差と差別にあえぐインドの子ども。真の自立に不可欠な支援とはどのようなものか、慈悲行の足跡を辿りながら考える。

講師 サンガラントナ・マナケ（パンニャメッタの会）

第5講 12/12（火） 18:00〜19:30

がん患者のこころの声を聴く

－仏教者による傾聴活動－

内容 がん患者が置かれている個々の状況は社会的・経済的に千差万別である。がん患者にとって、身体の支援だけではなくこころを支えてくれる存在は不可欠である。仏教者による支援とその方途を学ぶ。

講師 佐野泰典（臨床僧の会）

第6講 12/26（火） 18:00〜19:30

おにぎりで「ご縁」をむすぶ

－路上生活者に寄り添う－

内容 生活困窮者・路上生活者に寄り添う仏教者。「苦」の現場に学び、「苦」を共にするなかで、現世を超えた「つながり」を発見する仏教者たちの方途に学ぶ。

講師 吉水岳彦（ひとさじの会）

第7講 1/9（火） 18:00〜19:30

被災者支援から見えてきたもの

－仏教と災害支援－

内容 2007年の能登地震以降、足湯ボランティアのなかで傾聴活動を行ってきた講師。災害支援に際して仏教者に求められる支援の有り方とは何か。

講師 辻 雅榮（高野山足湯隊）

第8講 1/23（火） 18:00〜19:30

子どもたちに「育ち直しの場」を

－困難を抱える子どもへの援助－

内容 被虐待児や不登校・発達障がい児など、困難を抱える子どもたちの現状とは。そして心理的援助と自立支援を目的としたいのちのケアについて学ぶ。

講師 藤 大慶（るんびに学園）

第9講 2/6（火） 18:00〜19:30

医療者として、仏教者として

－患者と高齢者のこころのケア－

内容 生と死がせめぎあう医療現場。慣れ親しんだ生活から切り離され、病院や施設という非日常空間で人生の終末を迎える人に医療者・仏教者として向き合う姿に学ぶ。

講師 林 妙和（日蓮宗ビハーラ・ネットワーク）

第10講 2/20（火） 18:00〜19:30

現代社会における臨床仏教師の使命

－生老病死の苦しみに寄り添う－

内容 精神的空洞化社会と言われる現代。なぜ臨床仏教師が必要とされるのか。これまでの講座を総括しながら、臨床仏教の概念と臨床仏教師に求められている役割について考える。

講師 丹治光浩（花園大学）・神 仁（臨床仏教研究所）

私たちが生きる社会　私たちが抱く想い　生・老・病・死の「いま」を知る　「いま」を考える　人びとの〝いのち〟に寄り添うために